

# 新型インフルエンザ対策 に見る「新興感染症」対策と ファシリティマネジメント

JFMA・リスクマネジメント研究部会長  
上倉秀之

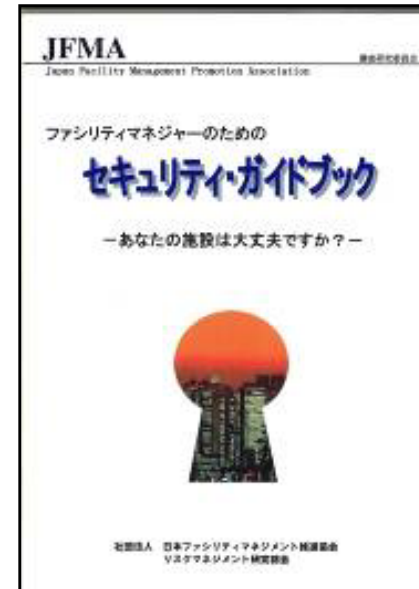
# リスクマネジメント研究部会紹介

ファシリティマネジメント業務においては「ファシリティ」を経営資源と考え、様々なリスクに備え、対応する必要があります。

私たち「リスクマネジメント研究部会」は、FMの現場に役立つ管理手法を研究しています。

毎月1回、JFMA会議室にて定例会を行い情報交換等を行っております。

参加ご希望の方は、JFMA事務局・寺島担当までご連絡下さい。



2008年8月発行

2003年6月発行



132頁  
会員価格1000円

# リスクマネジメントは…

- 「空振りにはゆるされるが、見逃しは許されない」
- 「大きく構えて、小さく収める」
- 「彼を知り、己を知れば、百戦して殆うからず。彼を知らず、己を知れば、一勝一敗す。彼を知らず、己を知らざれば、戦うごとに必ず殆うし。」(孫子)

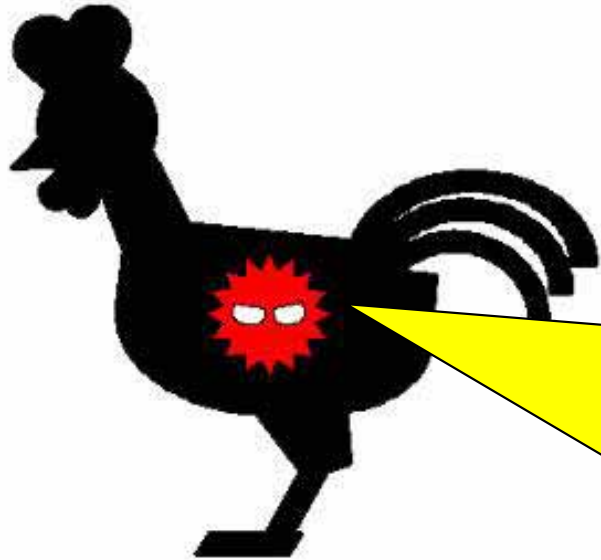
# 「新興感染症」

「新興感染症」とは「かつては知られていなかった、この20年間に新しく認識された感染症で、局地的に、あるいは国際的に公衆衛生上の問題となる感染症」とWHOに定義されている。

免疫を有する者が少ないため、流行すれば大きな社会問題となる可能性が高い。このため、国際的な監視や対策の取り組みが行われているが、企業の関心はまだ低い。

SARS(重症急性呼吸器症候群) / 高病原性鳥インフルエンザ / ウエストナイル熱/脳炎 / エボラ出血熱 / クリプトスポリジウム症 / クリミア・コンゴ出血熱 / 後天性免疫不全症候群(HIV) / 腸管出血性大腸菌感染症 / ニパウイルス感染症 / 日本紅斑熱 / バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)感染症 / マールブルグ病 / ラッサ熱

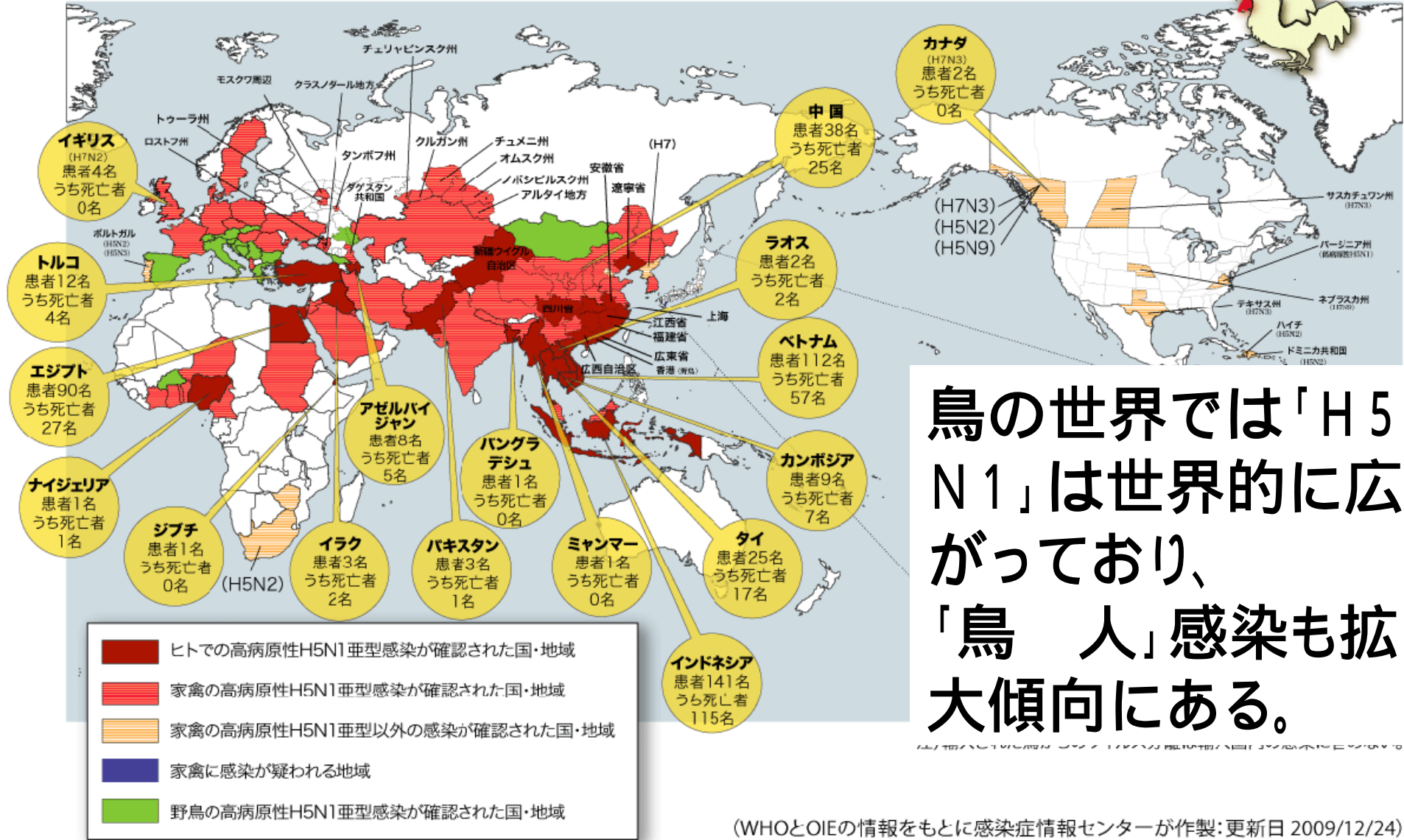
# 次に来るもの…「鳥？」



豚由来の「H1N1」に先を越されましたが、私「H5N1」も人類社会進出を狙っております。  
致死率6割近い実績を持っておりますので、最近報道されませんが危ないウイルスでございます。

他にも「H7N7」型ウイルスが人に感染することが確認されています。オランダでは2003年に450人が感染し、1人の死者が出ています。致死率は低いと考えられていますが、H7N7型ウイルスは、ヒトからヒトへ感染が拡大する可能性を持っています。

# 鳥インフルエンザの公式発表にもとづく分布 (2003年10月以降)



鳥の世界では「H5N1」は世界的に広がっており、「鳥 人」感染も拡大傾向にある。

(WHOとOIEの情報をもとに感染症情報センターが作製:更新日 2009/12/24)

# H5N1の特徴

## ■非常に高い致死率

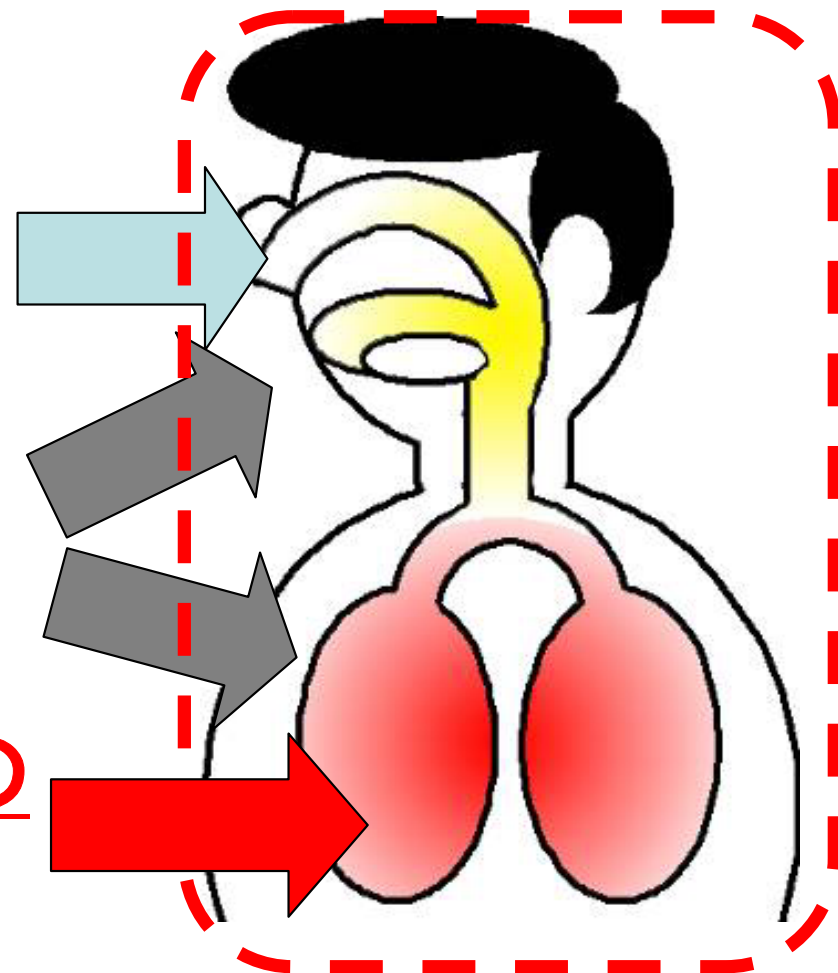
感染者442名・死亡者262名(59.3%)

## ■全身への感染

季節性インフル…  
「上気道」

新型「H1N1」…  
「上気道」「下気道」

「H5N1」…全身の  
臓器に感染する。



# 過去のパンデミック

## 1918年・スペインインフルエンザ「H1N1」

感染者数は6億人、死者は4000-5000万人(1億人の説もある)  
日本では当時の人口5500万人に対し39万人(最新の研究では48万人に達していたと推定されている。)

参考)第一次世界大戦での戦死者は900万。戦争を終結させたとも言われている。

## 1957年・アジアインフルエンザ「H2N2」

世界で200万人以上が死亡。国内では、第2波の死者が第1波の時の3倍であった。

## 1968年・香港インフルエンザ「H3N2」

世界で100万人以上が死亡。

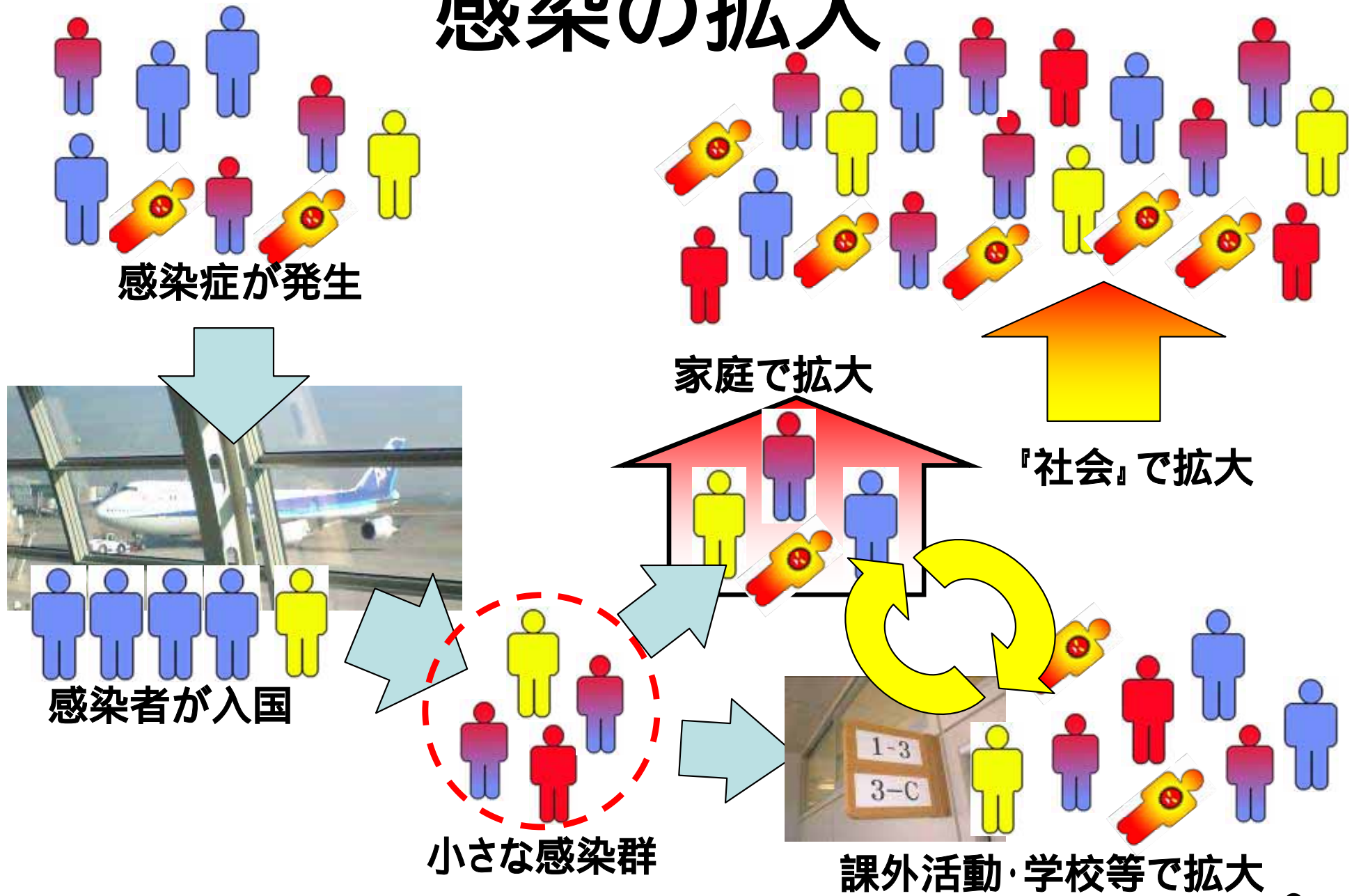
## 1977年・ソ連インフルエンザ「H1N1」

(1997年・鳥インフルエンザ「H5N1」人に感染)

## 2009年・インフルエンザA「H1N1」

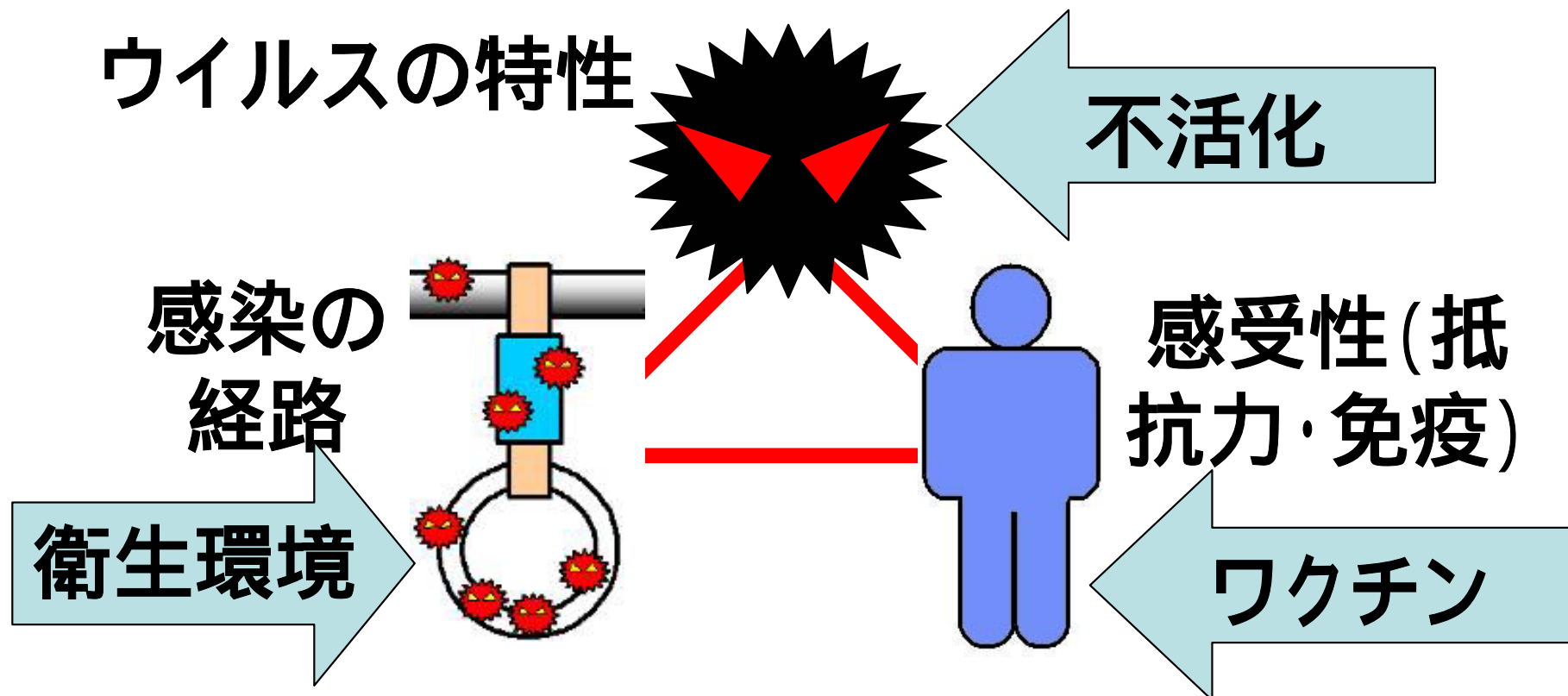


# 感染の拡大



# 感染拡大の防止には

- 「敵を知る」・・・情報を集め対策を実施する。

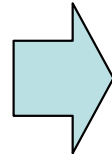


# 感染拡大防止

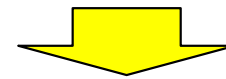


# ワクチンのジレンマ

ワクチンは重篤化の軽減効果



ワクチンはウイルスから作られる



事前にワクチンが作れない



新興感染症はウイルスが不明

発生からワクチン開発までの時間を稼ぐ必要

想定ウイルスから作る「プレパンデミックワクチン」



効果はやや劣ると思われるが一定の効果을期待

# 新興感染症の企業リスク

ブランドイメージ

社会基盤への影響

社会的責任

市場への影響

金融への影響

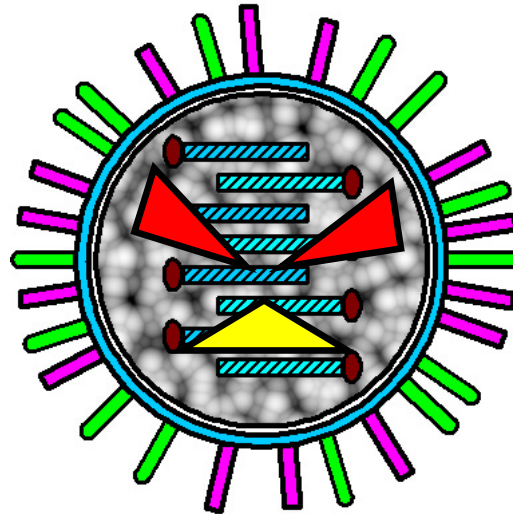
業績への影響

社員の士気

人的被害

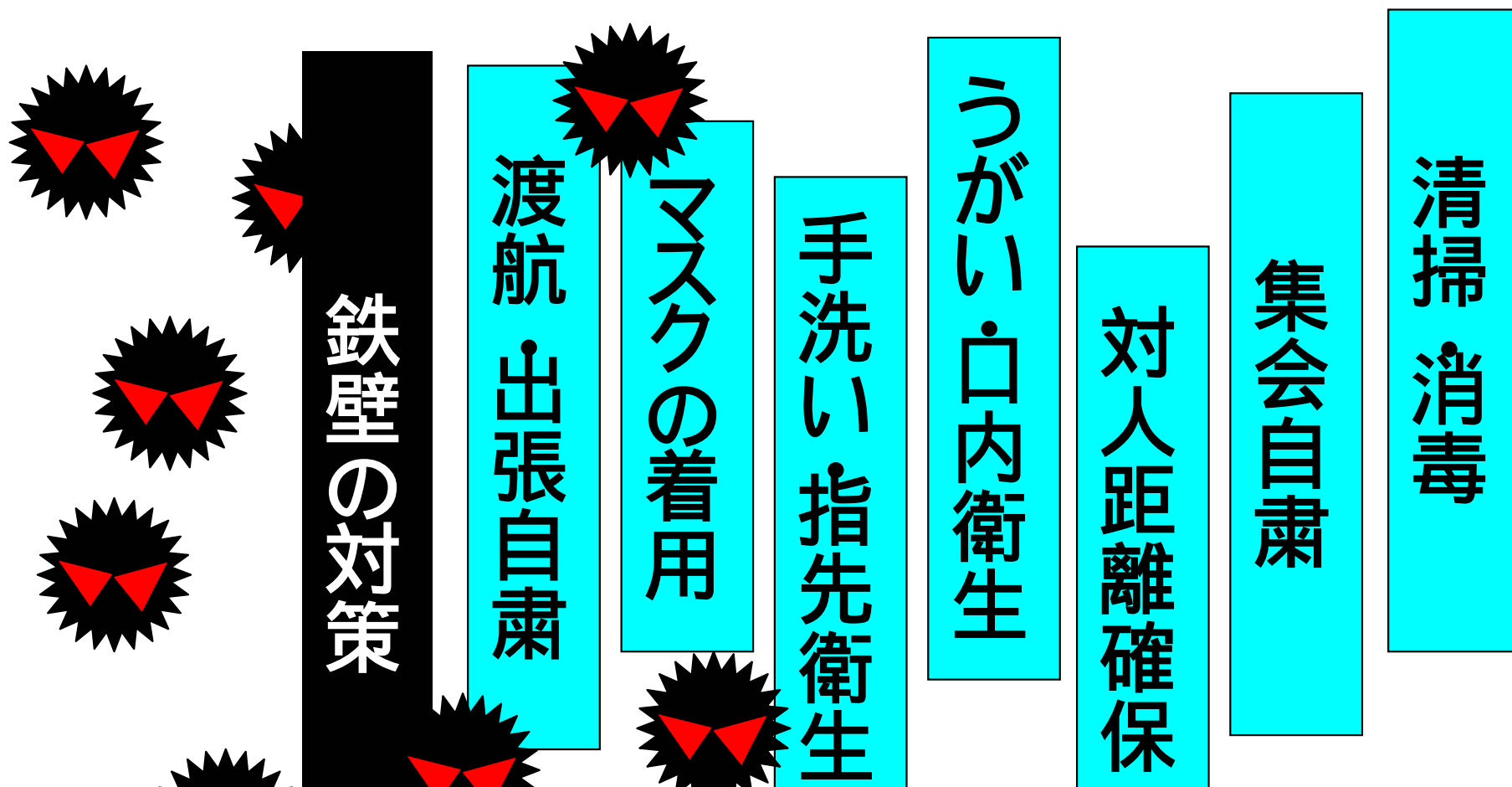
関係業者の被害

取引先の被害



「感染の初期」と「感染拡大期」では企業のリスクも対策も重点となる「軸」が異なる。

# 対策の考え方



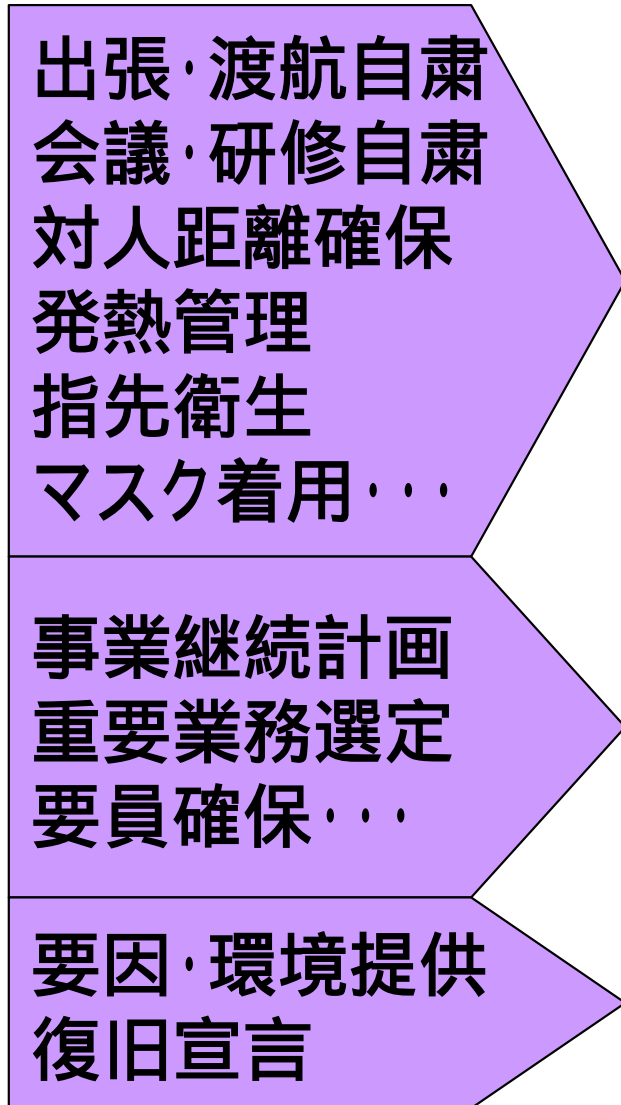
「鉄壁の対策」は無い。様々な対策を併用することで、感染拡大の確率を低減することが必要。

# 企業の対策はさまざま

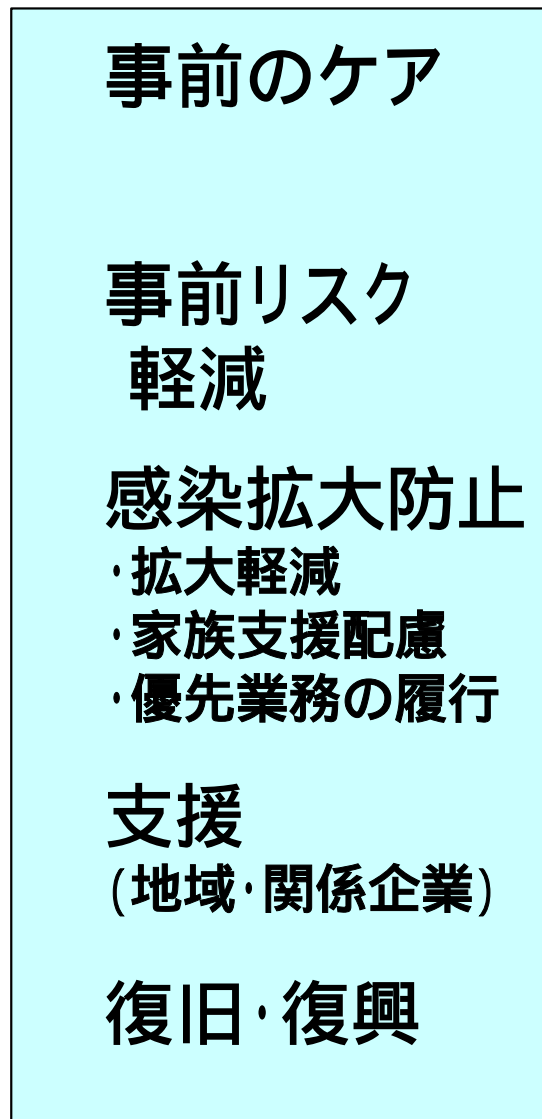
対策方針としては

人命安全を最優先対応  
最小限の事業経営影響  
社会機能維持活動の継続

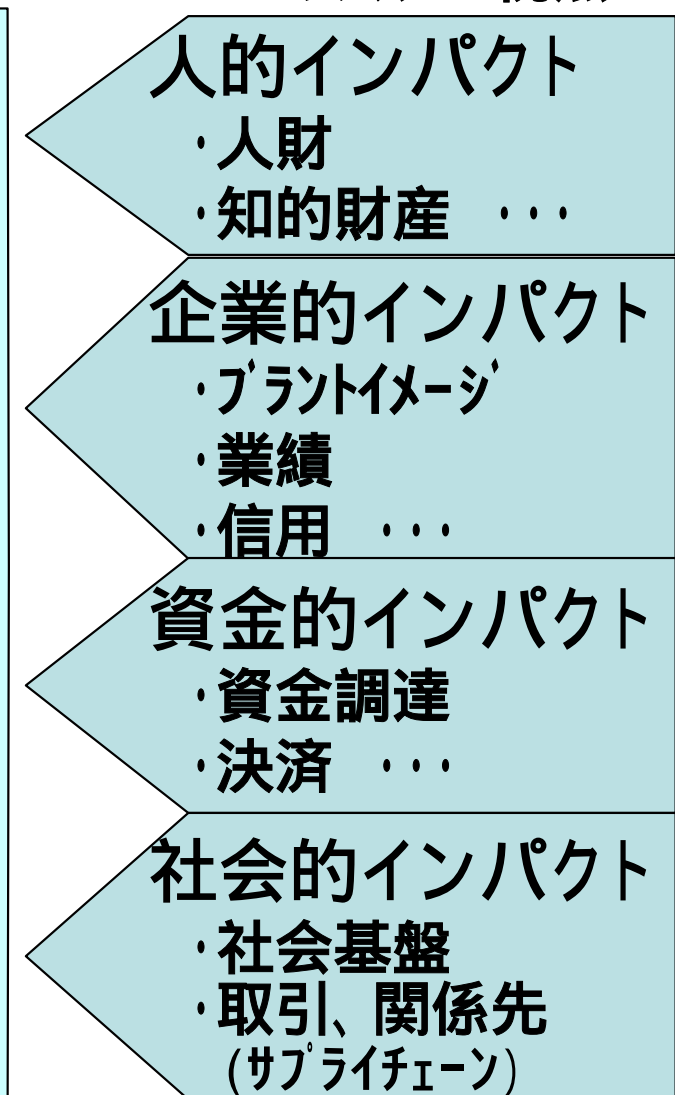
< 実施策例 >



< 対応要素 > ステップ



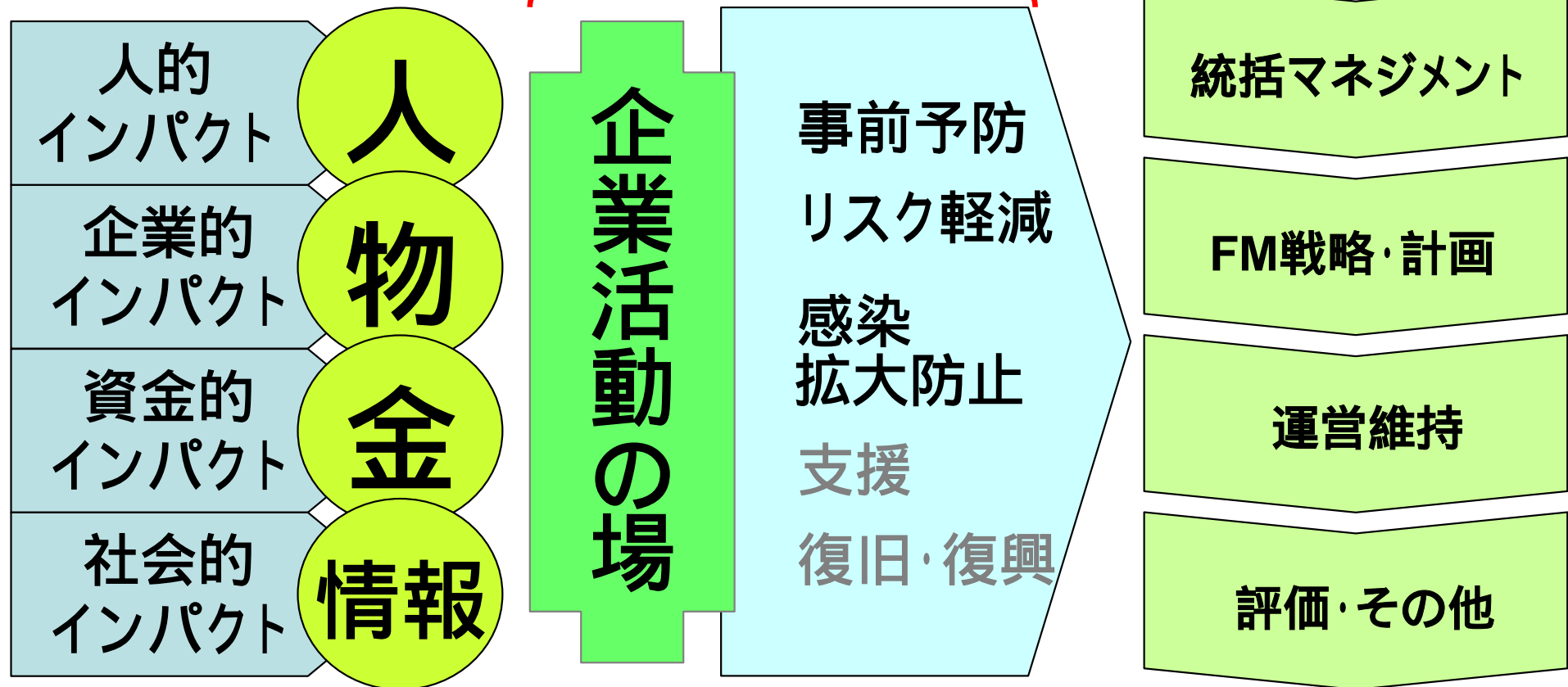
< リスクの視点 >



# 企業の対策(FM業務にフォーカス)

ファシティマネジャーとして、まずは自社企業を守ることに注力し、ワーカーが活動する施設や働く環境(Ba)を状況段階に応じフレキシブルに対応する為のマネジメントの視点が重要。

つまり、場(Ba)を守る視点





# 段階別のFM業務要素例として

	事前ケア	リスク軽減	感染拡大防止	支援 復旧 他
人的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染防止策啓発 セミナー開催</li> <li>・優先業務の考察</li> <li>・海外出張、駐在者 への配慮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優先業務人員の地域 分散(対策本部員含む)</li> <li>・欠員体制の構築</li> <li>・外部代行者模索(業務 シフト計画含む)</li> <li>・特別清掃消毒の委託</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発病欠勤者フォロー対策 開始(家族含む)</li> <li>・衛生等指導者活動開始</li> <li>・交代、宿直勤務者開始</li> <li>・対策本部本格活動開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係企業への業務 支援者派遣</li> <li>・関係企業への衛生 指導支援</li> </ul>
物的 (空間 ・施設)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セミナー会場準備</li> <li>・健康相談(管理室) 充実 ＜社内ホットラインなど＞</li> <li>・衛生用品倉庫確保</li> <li>・初期衛生用品配備 環境の準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原材料管理代行 倉庫確保</li> <li>・TV会議など遠隔ミー ティング施設の充実</li> <li>・優先業務専用執務 環境の準備</li> <li>・専用宿直施設の準備</li> <li>・入居ビル管理との調整 (消毒、空調、換気、入室 管理、清掃等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対策設備の導入 (消毒施設、サーモカメラ等)</li> <li>・対人距離確保配置配慮</li> <li>・出入管理(エリア、運用の制限)</li> <li>・会議・研修環境対策対応 (自粛運営、分散利用)</li> <li>・施設閉鎖(一部、限定など)</li> <li>・宿直施設可動開始対応</li> <li>・車通勤者駐車場確保</li> <li>・遠隔業務設備稼働対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康管理施設の 一部開放時の専用 スペース確保</li> <li>・閉鎖および、利用 限定施設の復旧、 返却</li> <li>・関係設備の回収、 廃棄</li> </ul>
財務 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備費用の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部委託費用の確保 (施設含む)</li> <li>・在宅勤務諸費用算定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営諸費用発生</li> <li>・運営縮小停止による負荷 算定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部支援費用</li> <li>・広報費用</li> </ul>
情報 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集体制構築</li> <li>・連絡指揮統制確立</li> <li>・バーチャル対策本 部環境準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染情報の収集</li> <li>・在宅勤務環境準備 (分散執務環境含む)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人員運用</li> <li>・感染情報状況・報告・発信</li> <li>・関係企業連絡調整</li> <li>・社外情報提供(広報)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高リスク者の把握</li> <li>・社外への収束 事 業復帰情報提供</li> <li>・社内インフラ調整</li> </ul>

# 事前ケア

人的	<ul style="list-style-type: none"><li>・感染防止策啓発 セミナー開催</li><li>・優先業務の考察</li><li>・海外出張、駐在者への配慮</li></ul>
物的 (空間・ 施設)	<ul style="list-style-type: none"><li>・セミナー会場準備</li><li>・健康相談(管理室)充実 &lt; 社内ホットラインなど &gt;</li><li>・衛生用品倉庫確保</li><li>・初期衛生用品配備 環境の準備</li></ul>
財務的	<ul style="list-style-type: none"><li>・準備費用の確保</li></ul>
情動的	<ul style="list-style-type: none"><li>・情報収集体制構築</li><li>・連絡指揮統制確立</li><li>・バーチャル対策本部環境準備</li></ul>

# リスク軽減

人的	<ul style="list-style-type: none"><li>・優先業務人員の地域分散(対策本部員含む)</li><li>・欠員体制の構築</li><li>・外部代行者模索(業務シフト計画含む)</li><li>・特別清掃消毒の委託</li></ul>
物的 (空間 ・施設)	<ul style="list-style-type: none"><li>・原材料管理代行 倉庫確保</li><li>・TV会議など遠隔ミーティング施設の充実</li><li>・優先業務専用執務 環境の準備</li><li>・専用宿直施設の準備</li><li>・入居ビル管理との調整 (消毒、空調、換気、入室管理、清掃等)</li></ul>
財務的	<ul style="list-style-type: none"><li>・外部委託費用の確保(施設含む)</li><li>・在宅勤務諸費用算定</li></ul>
情動的	<ul style="list-style-type: none"><li>・感染情報の収集</li><li>・在宅勤務環境準備 (分散執務環境含む)</li></ul>

# 感染拡大防止

<p>人的</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発病欠勤者フォロー対策開始(家族含む)</li> <li>・衛生等指導者活動開始 ・交代、宿直勤務者開始</li> <li>・対策本部本格活動開始</li> </ul>
<p>物的 (空間 ・施設)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対策設備の導入 (消毒施設、サーモカメラ等)</li> <li>・対人距離確保配置配慮</li> <li>・出入管理(エリア、運用の制限)</li> <li>・会議・研修環境対策対応 (自粛運営、分散利用)</li> <li>・施設閉鎖(一部、限定など)</li> <li>・宿直施設可動開始対応</li> <li>・車通勤者駐車場確保</li> <li>・遠隔業務設備稼働対応</li> </ul>
<p>財務的</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営諸費用発生</li> <li>・運営縮小停止による負荷算定</li> </ul>
<p>情報的</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人員運用</li> <li>・関係企業連絡調整</li> <li>・感染情報状況・報告・発信</li> <li>・社外情報提供(広報)</li> </ul>

# 支援・復旧 他

人的	<ul style="list-style-type: none"><li>・関係企業への業務支援者派遣</li><li>・関係企業への衛生指導支援</li></ul>
物的 (空間 ・施設)	<ul style="list-style-type: none"><li>・健康管理施設の一部開放時の専用スペース確保</li><li>・閉鎖および、利用限定施設の復旧、返却</li><li>・関係設備の回収、廃棄</li></ul>
財務的	<ul style="list-style-type: none"><li>・外部支援費用</li><li>・広報費用</li></ul>
情動的	<ul style="list-style-type: none"><li>・高リスク者の把握</li><li>・社外への収束 事業復帰情報提供</li><li>・社内インフラ調整</li></ul>

# **F M部門の事業継続・欠員体制**

**不要不急の業務を間引き、サービスの質を維持する。**

**「重要業務」とは、「今、この状況下においても継続する必要がある業務」**

**組織内での感染拡大を避けることが次の対応を楽にする。**

**協力業者の体制も確認する。**

**(無理は言わない。感染症は社会に平等に広がる。)**

# 施設管理として取り得る対策

- 持ち込ませない
  - ◆ 施設での出入管理・発熱管理の徹底
  - ◆ 施設の利用制限・一部閉鎖・全体閉鎖
- 拡大させない
  - ◆ 感染経路の遮断
  - ◆ 衛生環境維持・衛生機材の備蓄活用
- 早期対応
  - ◆ 連絡体制の確立
  - ◆ 関係先との事前の協調体制の確立
  - ◆ 発病者対策の検討

# 施設の閉鎖・部分閉鎖

閉鎖の意思決定	施設の閉鎖は、事業に大きく影響するため閉鎖、再開の意思決定・周知について事前に検討する。
閉鎖の手順	防犯・防災上の観点を中心に施設の閉鎖を行う。
閉鎖の告知	施設の閉鎖を施設関係者・一般来場者等に迅速に周知できる方法(メール配信・HP告知等)を検討する。
閉鎖中の運用	施設閉鎖中の施設利用・運用ルール・出入管理ルールの徹底を図る。



# 企業の情報収集の限界

## ■ 情報入手先の確保と「質」の評価

- 公的機関の発表は「正確性」の点から遅れる。
- 外国の関係機関からの情報を見るには語学力と専門知識が必要。
- さまざまな「質」の情報がマスコミ・ネット等に流れ、風評被害も発生。

## ■ 経営陣を納得させる「情報」入手の困難性

- 対策の承認を得るために必要な企業のリスク情報が乏しい。
- 事業リスクを感じさせる過去事例・経験・教訓に乏しい。
- 沈静化を目的とした情報が「楽観視」を生みだす。

## ■ 多方面から出される様々な「見解」の評価

- 医療の専門性(内科・小児科・公衆衛生・ウイルス・獣医・・・)により見解が大きく異なる。 被害想定・シナリオ・対策の検討の根拠の選択が難しい。

# 今後、期待される技術

## ■ ウイルスの不活化技術

- ◆ 空調機器メーカーによる空気中のウイルスに対する不活化技術開発が進んだ。今後、効果の検証が進むとともに、大型の施設向けの機器が登場する。
- ◆ 抗菌材質の普及、消毒関係の技術開発。

## ■ ワクチン・治療薬の早期開発

- ◆ 早期・大量の技術確立が急がれている。
- ◆ 注目を集める疾病は治療薬の開発にも熱心。

## ■ 業務環境の変化

- ◆ ネットワーク会議の浸透、在宅勤務の普及
- ◆ ワークプレイスの変化

# 新興感染症対策

企業の新興感染症対策は始まったばかりです。今回の「H1N1」で学ぶ企業、記憶の彼方に流し去る企業など様々でしょう。

しかし、「H1N1」が登場したように、次の感染症が発生するかもしれません。

事例こそが次へのヒントを与えてくれます。

いま、まさに進行中の「H1N1」のリスクをリアルタイムに体感し、情報とノウハウを蓄積することが「次」への対応力を高めます。

# ご清聴ありがとうございました。

ブタだの鳥だの煩  
いなあ。そろそろ、  
暴れちゃうぞ…。



JFMA・リスクマネジメント研究部会長  
(株)セノン システム警備事業部長  
上倉秀之

[h-kamikura@senon.co.jp](mailto:h-kamikura@senon.co.jp)